

IV-230

道路の“にぎわい”と“混雑”に関する一考察

(株)オリエンタルコンサルタンツ 正会員 坂田慎二

(株)オリエンタルコンサルタンツ 正会員 後藤忠博

(株)オリエンタルコンサルタンツ 正会員 富樫 慎

1. はじめに

都市の活力を表す指標の一つとして、まちの“にぎわい”がある。これは、人がまちに集まることによって、形成されるまちの雰囲気であり、まちの骨格をつくる道路の“にぎわい”でもある。

しかし、この道路のにぎわいについて、人は“にぎわっている”と良い意味で捉える場合と、“混雑している”という悪い意味で捉える場合との二通りの感じ方がある。この感じ方の相違は、直接、まちに対するイメージとして残存し、そのまちに再来するかどうかの選択要因の一つと成りうるものである。

そこで、本研究は、来街者の再来を促すような道路整備を行い、よりよいまちづくりを行うための一要因として、“にぎわい”と“混雑”の感じ方の相違について検討を行った。

2. “にぎわい”と“混雑”の評価の違い

図-1は、東京都台東区の住民および事業所を対象に、区内道路に対する意識を質問した項目のうち、道路の“にぎわい”と“混雑”に関する事項について、道路区間別に集計した結果である。この結果より、特徴的な事項をあげると以下のとおりである。

①「人通りが多い」と解答している道路に対して、「にぎわい」と感じる道路と「混雑」と感じる道路がある。

②「人通りが多い」と解答している道路の中で、同一の道路に対して、住民と事業者で正反対の評価をしている。

このように「人通りが多い」と解答されている道路に対する感じ方は、個々の道路、アンケート対象者によって異なっている。

そこで、その相違となる要因が何に起因しているかを分析するために、図-1で抽出された道路の状況を、以下の項目について整理し、定性的な分析を行った。

- ①沿道の土地利用
- ②通行状況(歩行者、自転車)
- ③歩道の有効幅員及び実効幅員
- ④違法占用物件

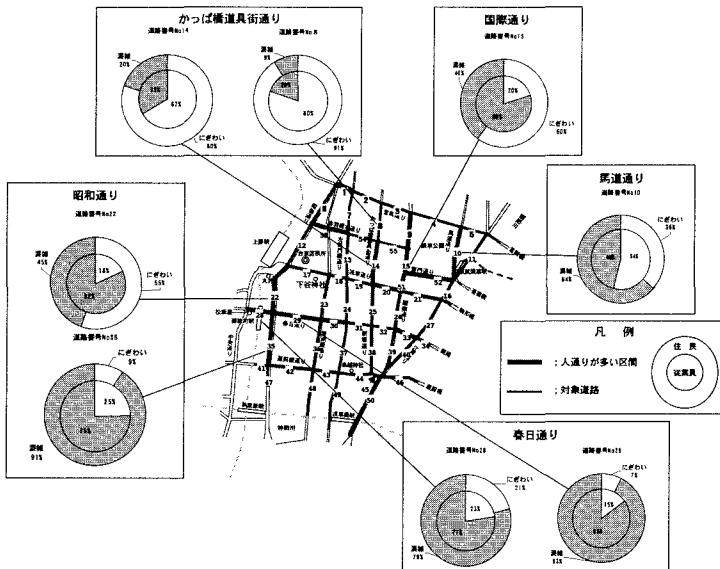


図-1 「混雑」と「にぎわい」の評価の違い

キーワード：まちのにぎわい、まちの混雑

連絡先：〒213-0011 神奈川県川崎市高津区久本3-5-7 ニッセイ新溝の口ビル

電話：044-812-8208 FAX：044-812-8209

3. 道路状況の比較

前節にあげた項目について、各道路における状況を表-1に整理した。

①沿道状況

“にぎわい”及び“混雑”の感じ方と沿道の土地利用の関係をみると、“にぎわい”と感じる道路の沿道は商店利用が多い。

②通行状況

歩行者もしくは自転車のどちらか、または両者の通行量があまり多くない道路で、“にぎわい”を感じている。

③歩道幅員

各道路とも有効幅員に差はあるものの、実効幅員が1.0～2.0mの間であるため、歩道幅員による“にぎわい”“混雑”の差は明確にあらわれていない。

④占用物件

占用物件のうち、商品が陳列してある道路は、“にぎわい”と感じる傾向にある。

4. “にぎわい”及び“混雑”の相違要因

についての考察

前節の道路状況の比較より、“にぎわい”を感じている道路状況の要因として、「沿道利用は商店」、「違法占用物件は商品」、「人通りはあまり多くない」ことが抽出された。この結果を受けて、“にぎわい”と“混雑”の相違について、推測も含めた上の考察を行った。

- ①人が“にぎわい”を感じる道路は、沿道利用が商店あり、その商店の前に商品が陳列されており、人通りがあまり多くない道路である。

- ②つまり、商店前の商品を見ながら通行している人やその商品を立ち止まって見ている人(溜まり)が存在することである。

- ③また、歩行者通行量は、あまり多くなことがにぎわいを感じる要因となっており、通行量が多いことが必ずしも“にぎわい”になるとは限らない。

- ④これらを総括すると、道路を通過の目的で通行している人と立ち止まって商品を見る人及び歩きながら商品を見る人といった通行目的によって、その相違が二分され、また、その歩行者量によって、“にぎわい”と“混雑”の感じ方の差が生まれるように思われる。

- ⑤また、それを歩行形態からみると通過目的の歩行者は、直線的な行動形態であり、商品見ながら歩いている歩行者は、ジグザグな行動形態をしている。また、その歩行速度についても大きな差が生じていると考えられる。

- ⑥仮にそうであるとしたら、商店街の道路整備においては、商店街の“にぎわい”を確保もしくは維持するためには、商店前の歩道を、商品を見ながら通行可能なスペース(溜まり空間)と通過目的の通行スペースとに分離する必要があるだろう。

5. おわりに

今回は、道路の“にぎわい”と“混雑”の要因を分析するために、道路状況を把握し、定性的な分析を行った。

今後、考察で記述した事項について、数値的な実証とそれから得られる知見との整合性をとる必要がある。

表-1 道路状況による“にぎわい”と“混雑”の違い

道路名称	道路No.	感じ方		沿道状況	通行状況		歩道幅員		占用物件
		住民	従業員	用途	歩行者	自転車	有効幅員	実行幅員	主な違法物件
かっぱ橋道具街通り	8	にぎわい	にぎわい	商店街	少ない	多い	3.0m	1.0～1.5m	商品
	14	にぎわい	にぎわい	商店街	少ない	多い	3.0m	1.0～1.5m	商品
国際通り	15	にぎわい	混雑	商店街	多い	多い	4.0m	1.0～2.0m	放置自転車、看板等
	10	混雑	にぎわい	商店街	多い	多い	3.0m	1.0～1.5m	放置自転車、看板等
昭和通り	22	にぎわい	混雑	オフィスビル 商店	多い	少ない	3.0m	1.0～1.5m	放置自転車、看板等
	35	混雑	混雑	オフィスビル	多い	少ない	3.0m	1.0～1.5m	放置自転車、看板等
春日通り	28	混雑	混雑	商店街	多い	多い	3.35m	1.5～2.0m	放置自転車、看板等
	29	混雑	混雑	オフィスビル	少ない	多い	2.2m	1.0m	放置自転車

*表中の道路は、アンケート結果より、通行量が多いと解答された道路である。そのため、歩行者の通行状況については、これら道路を相対的に比較して、「多い」「少ない」と判断している。